

一紅会講演会

20年の歩み



一紅会講演会の記録

| 回 | 開催日・会場 | 演 題 | 講 師 |
|----|----------------------------|---|---|
| 1 | 平成10年1月17日(土) 銀座東武ホテル | わたしのライフワーク 「児童文学とのかかわり」 | 尾辻 紀子 氏 (S28卒 児童文学者) |
| 2 | 平成11年1月23日(土) 四谷クラブ | 「オウム」と、たたかいし日々 | 井上 幸彦 氏 (S31卒 前警視総監) |
| 3 | 平成12年1月15日(土) 如水会館 | 平野忠彦のおはなし | 平野 忠彦 氏 (S31卒 東京芸術大学教授・ 声楽家) |
| 4 | 平成13年1月20日(土) アルカディア市ヶ谷 | 近代絵画の流れ …バルビゾン派から印象派へ… | 島田 紀夫 氏 (S34卒 山梨県立美術館館長・ 実践女子大学教授) |
| 5 | 平成14年1月26日(土) アルカディア市ヶ谷 | 漫画ブームの夜明けに 編集者サイドのノン・フィクション奮闘記 | 丸山 昭 氏 (S23卒 01年朝日新聞手塚 治虫文化賞・特別賞受賞) |
| 6 | 平成15年1月18日(土) アルカディア市ヶ谷 | 総合エンターテイメントプロダクション アミューズを率いて！ 独自手法で新人育成 | 山本 久 氏 (S40卒 (株)アミューズ社長) |
| 7 | 平成16年1月31日(土) アルカディア市ヶ谷 | ベンチャービジネスとして 独自の発展を切り開く スピード経営の手法とは？ | 中村 和男 氏 (S40卒 シミック(株)社長) |
| 8 | 平成17年2月5日(土) アルカディア市ヶ谷 | 幕末維新への旅 ～私の歴史小説～ | 渡辺 房男 氏 (S38卒 作家・NHKエンター プライズ21プロデューサー) |
| 9 | 平成18年3月21日(火) アルカディア市ヶ谷 | 外から見た日本 | 林 義子 氏 (S30卒 「いのちの電話」創設 メンバー) |
| 10 | 平成19年3月10日(土) アルカディア市ヶ谷 | 隣の国とどうつき合う | 渡辺 利夫 氏 (S33卒 拓殖大学学長) |

(講師の所属、役職は講演当時)

第1回～8回は新春、第9回から春に開催



いちこうかい 一紅会について

「一紅会」は、甲府一高を卒業した女性が学年を越えて交友関係を深め、さらに東京同窓会に多くの女性が参加するよう呼びかけ、同窓会を盛り上げようという主旨で発会しました。

平成7年に甲府一高東京同窓会の女性ネットワークの会が生まれ、平成8年3月7日に「一紅会」として正式にスタートし、平成9年2月1日付で会則を制定しました。

| 回 | 開催日・会場 | 演 題 | 講 師 |
|---------|------------------------------|---|--|
| 11 | 平成20年3月8日(土) アルカディア市ヶ谷 | 老いを科学する ーサクセスフル・エイジングー | 田沼 靖一 氏 (S45卒 東京理科大学教授) |
| 12 | 平成21年3月7日(土) アルカディア市ヶ谷 | 中世のトップリーダー ～甲斐の国、その素晴らしい文化～ | 守屋 正彦 氏 (S46卒 筑波大学教授) |
| 13 | 平成22年3月6日(土) アルカディア市ヶ谷 | 言葉の魔力に魅せられて ～伝える楽しみ・伝わる喜び 豊かなコミュニケーションのために～ | 浅川 初美 氏 (S47卒 山梨放送 アナウンス部長) |
| 14 ※ | 平成23年10月10日(月) 東京ウィメンズプラザ | どうなる日本の明日 ～報道最前線での洞察～ | 藤巻 秀樹 氏 (S48卒 日本経済新聞 編集委員) |
| 15 | 平成24年3月10日(土) アルカディア市ヶ谷 | 少子化日本を救う 「母子手帳教育」とは | 井上 栄 氏 (S33卒 大妻女子大学教授) |
| 16 | 平成25年3月9日(土) アルカディア市ヶ谷 | 子ども達に活かされて 共に歩む小児科医の夢 | 小口 弘毅 氏 (S45卒 おぐちこども クリニック院長) |
| 17 | 平成26年3月8日(土) アルカディア市ヶ谷 | 万葉集は、 古代人の「ドキュメンタリー」 | 小河原 正己 氏 (S34卒 NHK「日めくり万葉 集」プロデューサー) |
| 18 | 平成27年3月14日(土) アルカディア市ヶ谷 | 日本政治の昨日・今日・明日 | 島田 敏男 氏 (S52卒 NHK解説主幹) |
| 19 | 平成28年3月12日(土) アルカディア市ヶ谷 | ウイスキーは「日本」の酒である | 輿水 精一 氏 (S43卒 サントリー 名誉チーフブレンダー) |
| 20 | 平成29年3月11日(土) アルカディア市ヶ谷 | 脳健康とビタミン | 一瀬 宏 氏 (S54卒 東京工業大学教授) |

※東日本大震災のため秋に講演会のみ実施

「一紅会」の名称は、甲府一高の「一」と校旗・女子制服の蝶ネクタイの「紅」にちなんで名づけられたものです。

現在は、東京同窓会の各学年幹事の方々から推薦された、約70名（男女共学が始まった昭和28年から平成3年卒業までの代表）が年3回の幹事会を開き、同窓文化発展のため 各界で活躍されている同窓生を講師にお招きして年に一度 講演会を開催しています。



第20回記念一紅会講演会を迎えて

一紅会会長 谷口百合子

平成24年飯田富美子様の後を受けて、一紅会会長を拝命してから今年で早や5年になります。本日は、おめでとう第20回記念講演会～一瀬宏講師「脳の健康とビタミン」～をこんなに大勢の皆様とご一緒に拝聴出来ます事を本当に嬉しく幸せに存じます。

一口に20回と申しましても決して平坦な道のりではなく、あの2011年(平成23年)3・11の辛い経験を乗り越えてまいりましたことは忘れる事ができません。

先輩の方々のご努力により、平成10年一紅会活動の支柱となるべく生まれた講演会が、一紅会の気風に合って、毎回沢山のご賛同とご協力を頂きながら、回を重ねる毎充実した講演会として20年も継続してまいりました。綺羅星の如、各界各分野でご活躍中の同窓生を講師にお願い出来ますのも私どもの大きな誇りです。毎年心を込めて作ってまいりました講演会のチラシを、ここにさきやかですが、記念誌として纏めました。

お心にお留め置き頂ければ幸甚に存じます。

一紅会は、仲間も増え学年の枠を超えて広く交流しながら活動しています。これからはさらに若い世代に参加を働きかけ、移り行く時代に相応しい同窓会、一紅会の姿を共に模索しながら、新しいページを重ねて、次に繋げて行きたいと願っています。もとより微力ではありますが皆様と手を携えて努力していく所存ですので、どうぞ一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。



第1回「一紅会」主催 新春講演会

わたしのライフワーク

「児童文学とのかかわり」

講師 尾辻 紀子氏



【プロフィール】

横浜市生まれ
昭和28年甲府第一高等学校卒業
東京大学看護学校卒業
法政大学文学部卒業
日本児童文学者協会会員
埼玉県川口市在住(曹洞宗昌福寺)

【主な著書】

- | | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 「おはなし、おはなし、たのしいね」 (ツッ子とコッコ) | 童心社 |
| 「友だちの嬉しいっぱい」 (かわいいおぼろさん) | 講談社 |
| 「マイコンじゅく、二年生」 (こおつたオオル) | 信成社 |
| 「ついてくるひだま」 (七バヤミのおんりよう) | 信成社 |
| 「チャプラーからこんにちは」 (近代看護への道・大関 和の生涯) | 教育出版センター 新人物往來社 |

日時：平成10年1月17日(土)
PM 3:00~5:00

場所：銀座東武ホテル内
ロジェドール

会費：5000円



「一紅会」主催 新春講演会のご案内

「治安のよい日本」、「安全な東京」のために、「高層・高努力された井上孝彦氏を講師にお招きして、新春講演会を下記のとおりに開催致します。
皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。



演 題：「オウム」と、たまたかいし日本
講 師：井上孝彦氏(昭和31年卒)
日 時：平成11年1月23日(土)
12:30* 受付開始
13:30~15:00 講演会
15:00~16:30 *レブアップ・トーク
(懇話会)

会 場：四谷クラブ
(下葉案内図をご願ひください)
会 費：3,000円
*当日受付でお支払いください。
お席のお申込み・お問い合わせは、
下記の各学年係までお願い致します。
学年係名
電話番号

井上孝彦氏のプロフィール

昭和12年2月14日生まれ(10歳没)
31年2月 甲府第一高卒
37年4月 東京大学文学部卒
37年4月 警視庁入庁
37年5月 警視庁警務課長
37年6月 警視庁警務課長
46年9月 警視庁警務課長
66年1月 警視庁警務課長
69年1月 警視庁警務課長
70年1月 警視庁警務課長

アーバンクラブ・ミレニアム・セミナールーム(四谷クラブビル5F)
7160-0005 東京都新宿区雑司3番屯1 四谷クラブビル5F TEL:03-3356-7300



第3回「一紅会」主催
新春講演会

平野忠彦のおはなし



平野 忠彦 ●バロン
HIRANO TADAYOSHI

作曲家として、自作曲一冊、
音楽家としての平野、1974年秋、
東京音楽大学で、1974年秋、
1975年秋、1976年秋、
1977年秋、1978年秋、
1979年秋、1980年秋、
1981年秋、1982年秋、
1983年秋、1984年秋、
1985年秋、1986年秋、
1987年秋、1988年秋、
1989年秋、1990年秋、
1991年秋、1992年秋、
1993年秋、1994年秋、
1995年秋、1996年秋、
1997年秋、1998年秋、
1999年秋、2000年秋、
2001年秋、2002年秋、
2003年秋、2004年秋、
2005年秋、2006年秋、
2007年秋、2008年秋、
2009年秋、2010年秋、
2011年秋、2012年秋、
2013年秋、2014年秋、
2015年秋、2016年秋、
2017年秋、2018年秋、
2019年秋、2020年秋、
2021年秋、2022年秋、
2023年秋、2024年秋、
2025年秋、2026年秋、
2027年秋、2028年秋、
2029年秋、2030年秋、
2031年秋、2032年秋、
2033年秋、2034年秋、
2035年秋、2036年秋、
2037年秋、2038年秋、
2039年秋、2040年秋、
2041年秋、2042年秋、
2043年秋、2044年秋、
2045年秋、2046年秋、
2047年秋、2048年秋、
2049年秋、2050年秋、
2051年秋、2052年秋、
2053年秋、2054年秋、
2055年秋、2056年秋、
2057年秋、2058年秋、
2059年秋、2060年秋、
2061年秋、2062年秋、
2063年秋、2064年秋、
2065年秋、2066年秋、
2067年秋、2068年秋、
2069年秋、2070年秋、
2071年秋、2072年秋、
2073年秋、2074年秋、
2075年秋、2076年秋、
2077年秋、2078年秋、
2079年秋、2080年秋、
2081年秋、2082年秋、
2083年秋、2084年秋、
2085年秋、2086年秋、
2087年秋、2088年秋、
2089年秋、2090年秋、
2091年秋、2092年秋、
2093年秋、2094年秋、
2095年秋、2096年秋、
2097年秋、2098年秋、
2099年秋、2100年秋、
2101年秋、2102年秋、
2103年秋、2104年秋、
2105年秋、2106年秋、
2107年秋、2108年秋、
2109年秋、2110年秋、
2111年秋、2112年秋、
2113年秋、2114年秋、
2115年秋、2116年秋、
2117年秋、2118年秋、
2119年秋、2120年秋、
2121年秋、2122年秋、
2123年秋、2124年秋、
2125年秋、2126年秋、
2127年秋、2128年秋、
2129年秋、2130年秋、
2131年秋、2132年秋、
2133年秋、2134年秋、
2135年秋、2136年秋、
2137年秋、2138年秋、
2139年秋、2140年秋、
2141年秋、2142年秋、
2143年秋、2144年秋、
2145年秋、2146年秋、
2147年秋、2148年秋、
2149年秋、2150年秋、
2151年秋、2152年秋、
2153年秋、2154年秋、
2155年秋、2156年秋、
2157年秋、2158年秋、
2159年秋、2160年秋、
2161年秋、2162年秋、
2163年秋、2164年秋、
2165年秋、2166年秋、
2167年秋、2168年秋、
2169年秋、2170年秋、
2171年秋、2172年秋、
2173年秋、2174年秋、
2175年秋、2176年秋、
2177年秋、2178年秋、
2179年秋、2180年秋、
2181年秋、2182年秋、
2183年秋、2184年秋、
2185年秋、2186年秋、
2187年秋、2188年秋、
2189年秋、2190年秋、
2191年秋、2192年秋、
2193年秋、2194年秋、
2195年秋、2196年秋、
2197年秋、2198年秋、
2199年秋、2200年秋、
2201年秋、2202年秋、
2203年秋、2204年秋、
2205年秋、2206年秋、
2207年秋、2208年秋、
2209年秋、2210年秋、
2211年秋、2212年秋、
2213年秋、2214年秋、
2215年秋、2216年秋、
2217年秋、2218年秋、
2219年秋、2220年秋、
2221年秋、2222年秋、
2223年秋、2224年秋、
2225年秋、2226年秋、
2227年秋、2228年秋、
2229年秋、2230年秋、
2231年秋、2232年秋、
2233年秋、2234年秋、
2235年秋、2236年秋、
2237年秋、2238年秋、
2239年秋、2240年秋、
2241年秋、2242年秋、
2243年秋、2244年秋、
2245年秋、2246年秋、
2247年秋、2248年秋、
2249年秋、2250年秋、
2251年秋、2252年秋、
2253年秋、2254年秋、
2255年秋、2256年秋、
2257年秋、2258年秋、
2259年秋、2260年秋、
2261年秋、2262年秋、
2263年秋、2264年秋、
2265年秋、2266年秋、
2267年秋、2268年秋、
2269年秋、2270年秋、
2271年秋、2272年秋、
2273年秋、2274年秋、
2275年秋、2276年秋、
2277年秋、2278年秋、
2279年秋、2280年秋、
2281年秋、2282年秋、
2283年秋、2284年秋、
2285年秋、2286年秋、
2287年秋、2288年秋、
2289年秋、2290年秋、
2291年秋、2292年秋、
2293年秋、2294年秋、
2295年秋、2296年秋、
2297年秋、2298年秋、
2299年秋、2300年秋、
2301年秋、2302年秋、
2303年秋、2304年秋、
2305年秋、2306年秋、
2307年秋、2308年秋、
2309年秋、2310年秋、
2311年秋、2312年秋、
2313年秋、2314年秋、
2315年秋、2316年秋、
2317年秋、2318年秋、
2319年秋、2320年秋、
2321年秋、2322年秋、
2323年秋、2324年秋、
2325年秋、2326年秋、
2327年秋、2328年秋、
2329年秋、2330年秋、
2331年秋、2332年秋、
2333年秋、2334年秋、
2335年秋、2336年秋、
2337年秋、2338年秋、
2339年秋、2340年秋、
2341年秋、2342年秋、
2343年秋、2344年秋、
2345年秋、2346年秋、
2347年秋、2348年秋、
2349年秋、2350年秋、
2351年秋、2352年秋、
2353年秋、2354年秋、
2355年秋、2356年秋、
2357年秋、2358年秋、
2359年秋、2360年秋、
2361年秋、2362年秋、
2363年秋、2364年秋、
2365年秋、2366年秋、
2367年秋、2368年秋、
2369年秋、2370年秋、
2371年秋、2372年秋、
2373年秋、2374年秋、
2375年秋、2376年秋、
2377年秋、2378年秋、
2379年秋、2380年秋、
2381年秋、2382年秋、
2383年秋、2384年秋、
2385年秋、2386年秋、
2387年秋、2388年秋、
2389年秋、2390年秋、
2391年秋、2392年秋、
2393年秋、2394年秋、
2395年秋、2396年秋、
2397年秋、2398年秋、
2399年秋、2400年秋、
2401年秋、2402年秋、
2403年秋、2404年秋、
2405年秋、2406年秋、
2407年秋、2408年秋、
2409年秋、2410年秋、
2411年秋、2412年秋、
2413年秋、2414年秋、
2415年秋、2416年秋、
2417年秋、2418年秋、
2419年秋、2420年秋、
2421年秋、2422年秋、
2423年秋、2424年秋、
2425年秋、2426年秋、
2427年秋、2428年秋、
2429年秋、2430年秋、
2431年秋、2432年秋、
2433年秋、2434年秋、
2435年秋、2436年秋、
2437年秋、2438年秋、
2439年秋、2440年秋、
2441年秋、2442年秋、
2443年秋、2444年秋、
2445年秋、2446年秋、
2447年秋、2448年秋、
2449年秋、2450年秋、
2451年秋、2452年秋、
2453年秋、2454年秋、
2455年秋、2456年秋、
2457年秋、2458年秋、
2459年秋、2460年秋、
2461年秋、2462年秋、
2463年秋、2464年秋、
2465年秋、2466年秋、
2467年秋、2468年秋、
2469年秋、2470年秋、
2471年秋、2472年秋、
2473年秋、2474年秋、
2475年秋、2476年秋、
2477年秋、2478年秋、
2479年秋、2480年秋、
2481年秋、2482年秋、
2483年秋、2484年秋、
2485年秋、2486年秋、
2487年秋、2488年秋、
2489年秋、2490年秋、
2491年秋、2492年秋、
2493年秋、2494年秋、
2495年秋、2496年秋、
2497年秋、2498年秋、
2499年秋、2500年秋、
2501年秋、2502年秋、
2503年秋、2504年秋、
2505年秋、2506年秋、
2507年秋、2508年秋、
2509年秋、2510年秋、
2511年秋、2512年秋、
2513年秋、2514年秋、
2515年秋、2516年秋、
2517年秋、2518年秋、
2519年秋、2520年秋、
2521年秋、2522年秋、
2523年秋、2524年秋、
2525年秋、2526年秋、
2527年秋、2528年秋、
2529年秋、2530年秋、
2531年秋、2532年秋、
2533年秋、2534年秋、
2535年秋、2536年秋、
2537年秋、2538年秋、
2539年秋、2540年秋、
2541年秋、2542年秋、
2543年秋、2544年秋、
2545年秋、2546年秋、
2547年秋、2548年秋、
2549年秋、2550年秋、
2551年秋、2552年秋、
2553年秋、2554年秋、
2555年秋、2556年秋、
2557年秋、2558年秋、
2559年秋、2560年秋、
2561年秋、2562年秋、
2563年秋、2564年秋、
2565年秋、2566年秋、
2567年秋、2568年秋、
2569年秋、2570年秋、
2571年秋、2572年秋、
2573年秋、2574年秋、
2575年秋、2576年秋、
2577年秋、2578年秋、
2579年秋、2580年秋、
2581年秋、2582年秋、
2583年秋、2584年秋、
2585年秋、2586年秋、
2587年秋、2588年秋、
2589年秋、2590年秋、
2591年秋、2592年秋、
2593年秋、2594年秋、
2595年秋、2596年秋、
2597年秋、2598年秋、
2599年秋、2600年秋、
2601年秋、2602年秋、
2603年秋、2604年秋、
2605年秋、2606年秋、
2607年秋、2608年秋、
2609年秋、2610年秋、
2611年秋、2612年秋、
2613年秋、2614年秋、
2615年秋、2616年秋、
2617年秋、2618年秋、
2619年秋、2620年秋、
2621年秋、2622年秋、
2623年秋、2624年秋、
2625年秋、2626年秋、
2627年秋、2628年秋、
2629年秋、2630年秋、
2631年秋、2632年秋、
2633年秋、2634年秋、
2635年秋、2636年秋、
2637年秋、2638年秋、
2639年秋、2640年秋、
2641年秋、2642年秋、
2643年秋、2644年秋、
2645年秋、2646年秋、
2647年秋、2648年秋、
2649年秋、2650年秋、
2651年秋、2652年秋、
2653年秋、2654年秋、
2655年秋、2656年秋、
2657年秋、2658年秋、
2659年秋、2660年秋、
2661年秋、2662年秋、
2663年秋、2664年秋、
2665年秋、2666年秋、
2667年秋、2668年秋、
2669年秋、2670年秋、
2671年秋、2672年秋、
2673年秋、2674年秋、
2675年秋、2676年秋、
2677年秋、2678年秋、
2679年秋、2680年秋、
2681年秋、2682年秋、
2683年秋、2684年秋、
2685年秋、2686年秋、
2687年秋、2688年秋、
2689年秋、2690年秋、
2691年秋、2692年秋、
2693年秋、2694年秋、
2695年秋、2696年秋、
2697年秋、2698年秋、
2699年秋、2700年秋、
2701年秋、2702年秋、
2703年秋、2704年秋、
2705年秋、2706年秋、
2707年秋、2708年秋、
2709年秋、2710年秋、
2711年秋、2712年秋、
2713年秋、2714年秋、
2715年秋、2716年秋、
2717年秋、2718年秋、
2719年秋、2720年秋、
2721年秋、2722年秋、
2723年秋、2724年秋、
2725年秋、2726年秋、
2727年秋、2728年秋、
2729年秋、2730年秋、
2731年秋、2732年秋、
2733年秋、2734年秋、
2735年秋、2736年秋、
2737年秋、2738年秋、
2739年秋、2740年秋、
2741年秋、2742年秋、
2743年秋、2744年秋、
2745年秋、2746年秋、
2747年秋、2748年秋、
2749年秋、2750年秋、
2751年秋、2752年秋、
2753年秋、2754年秋、
2755年秋、2756年秋、
2757年秋、2758年秋、
2759年秋、2760年秋、
2761年秋、2762年秋、
2763年秋、2764年秋、
2765年秋、2766年秋、
2767年秋、2768年秋、
2769年秋、2770年秋、
2771年秋、2772年秋、
2773年秋、2774年秋、
2775年秋、2776年秋、
2777年秋、2778年秋、
2779年秋、2780年秋、
2781年秋、2782年秋、
2783年秋、2784年秋、
2785年秋、2786年秋、
2787年秋、2788年秋、
2789年秋、2790年秋、
2791年秋、2792年秋、
2793年秋、2794年秋、
2795年秋、2796年秋、
2797年秋、2798年秋、
2799年秋、2800年秋、
2801年秋、2802年秋、
2803年秋、2804年秋、
2805年秋、2806年秋、
2807年秋、2808年秋、
2809年秋、2810年秋、
2811年秋、2812年秋、
2813年秋、2814年秋、
2815年秋、2816年秋、
2817年秋、2818年秋、
2819年秋、2820年秋、
2821年秋、2822年秋、
2823年秋、2824年秋、
2825年秋、2826年秋、
2827年秋、2828年秋、
2829年秋、2830年秋、
2831年秋、2832年秋、
2833年秋、2834年秋、
2835年秋、2836年秋、
2837年秋、2838年秋、
2839年秋、2840年秋、
2841年秋、2842年秋、
2843年秋、2844年秋、
2845年秋、2846年秋、
2847年秋、2848年秋、
2849年秋、2850年秋、
2851年秋、2852年秋、
2853年秋、2854年秋、
2855年秋、2856年秋、
2857年秋、2858年秋、
2859年秋、2860年秋、
2861年秋、2862年秋、
2863年秋、2864年秋、
2865年秋、2866年秋、
2867年秋、2868年秋、
2869年秋、2870年秋、
2871年秋、2872年秋、
2873年秋、2874年秋、
2875年秋、2876年秋、
2877年秋、2878年秋、
2879年秋、2880年秋、
2881年秋、2882年秋、
2883年秋、2884年秋、
2885年秋、2886年秋、
2887年秋、2888年秋、
2889年秋、2890年秋、
2891年秋、2892年秋、
2893年秋、2894年秋、
2895年秋、2896年秋、
2897年秋、2898年秋、
2899年秋、2900年秋、
2901年秋、2902年秋、
2903年秋、2904年秋、
2905年秋、2906年秋、
2907年秋、2908年秋、
2909年秋、2910年秋、
2911年秋、2912年秋、
2913年秋、2914年秋、
2915年秋、2916年秋、
2917年秋、2918年秋、
2919年秋、2920年秋、
2921年秋、2922年秋、
2923年秋、2924年秋、
2925年秋、2926年秋、
2927年秋、2928年秋、
2929年秋、2930年秋、
2931年秋、2932年秋、
2933年秋、2934年秋、
2935年秋、2936年秋、
2937年秋、2938年秋、
2939年秋、2940年秋、
2941年秋、2942年秋、
2943年秋、2944年秋、
2945年秋、2946年秋、
2947年秋、2948年秋、
2949年秋、2950年秋、
2951年秋、2952年秋、
2953年秋、2954年秋、
2955年秋、2956年秋、
2957年秋、2958年秋、
2959年秋、2960年秋、
2961年秋、2962年秋、
2963年秋、2964年秋、
2965年秋、2966年秋、
2967年秋、2968年秋、
2969年秋、2970年秋、
2971年秋、2972年秋、
2973年秋、2974年秋、
2975年秋、2976年秋、
2977年秋、2978年秋、
2979年秋、2980年秋、
2981年秋、2982年秋、
2983年秋、2984年秋、
2985年秋、2986年秋、
2987年秋、2988年秋、
2989年秋、2990年秋、
2991年秋、2992年秋、
2993年秋、2994年秋、
2995年秋、2996年秋、
2997年秋、2998年秋、
2999年秋、3000年秋、
3001年秋、3002年秋、
3003年秋、3004年秋、
3005年秋、3006年秋、
3007年秋、3008年秋、
3009年秋、3010年秋、
3011年秋、3012年秋、
3013年秋、3014年秋、
3015年秋、3016年秋、
3017年秋、3018年秋、
3019年秋、3020年秋、
3021年秋、3022年秋、
3023年秋、3024年秋、
3025年秋、3026年秋、
3027年秋、3028年秋、
3029年秋、3030年秋、
3031年秋、3032年秋、
3033年秋、3034年秋、
3035年秋、3036年秋、
3037年秋、3038年秋、
3039年秋、3040年秋、
3041年秋、3042年秋、
3043年秋、3044年秋、
3045年秋、3046年秋、
3047年秋、3048年秋、
3049年秋、3050年秋、
3051年秋、3052年秋、
3053年秋、3054年秋、
3055年秋、3056年秋、
3057年秋、3058年秋、
3059年秋、3060年秋、
3061年秋、3062年秋、
3063年秋、3064年秋、
3065年秋、3066年秋、
3067年秋、3068年秋、
3069年秋、3070年秋、
3071年秋、3072年秋、
3073年秋、3074年秋、
3075年秋、3076年秋、
3077年秋、3078年秋、
3079年秋、3080年秋、
3081年秋、3082年秋、
3083年秋、3084年秋、
3085年秋、3086年秋、
3087年秋、3088年秋、
3089年秋、3090年秋、
3091年秋、3092年秋、
3093年秋、3094年秋、
3095年秋、3096年秋、
3097年秋、3098年秋、
3099年秋、3100年秋、
3101年秋、3102年秋、
3103年秋、3104年秋、
3105年秋、3106年秋、
3107年秋、3108年秋、
3109年秋、3110年秋、
3111年秋、3112年秋、
3113年秋、3114年秋、
3115年秋、3116年秋、
3117年秋、3118年秋、
3119年秋、3120年秋、
3121年秋、3122年秋、
3123年秋、3124年秋、
3125年秋、3126年秋、
3127年秋、3128年秋、
3129年秋、3130年秋、
3131年秋、3132年秋、
3133年秋、3134年秋、
3135年秋、3136年秋、
3137年秋、3138年秋、
3139年秋、3140年秋、
3141年秋、3142年秋、
3143年秋、3144年秋、
3145年秋、3146年秋、
3147年秋、3148年秋、
3149年秋、3150年秋、
3151年秋、3152年秋、
3153年秋、3154年秋、
3155年秋、3156年秋、
3157年秋、3158年秋、
3159年秋、3160年秋、
3161年秋、3162年秋、
3163年秋、3164年秋、
3165年秋、3166年秋、
3167年秋、3168年秋、
3169年秋、3170年秋、
3171年秋、3172年秋、
3173年秋、3174年秋、
3175年秋、3176年秋、
3177年秋、3178年秋、
3179年秋、3180年秋、
3181年秋、3182年秋、
3183年秋、3184年秋、
3185年秋、3186年秋、
3187年秋、3188年秋、
3189年秋、3190年秋、
3191年秋、3192年秋、
3193年秋、3194年秋、
3195年秋、3196年秋、
3197年秋、3198年秋、
3199年秋、3200年秋、
3201年秋、3202

第13回「一紅会」主催 春の講演会

言葉の魔力に魅せられて

～伝える楽しみ・伝わる喜び
豊かなコミュニケーションのために～

人と人のつながりに、言葉は大きな力をもっています。
「どしたらより深く伝えることができるか？」を自分に問いながら、インタビューアとして、人と関わり続ける浅川初美氏に、言葉の魅力についてお話しいただきます。
方言もまた、身近で味わいのあるコミュニケーションの道具です。標準語では言い表せない言葉の機微を伝えることができます。甲州弁の思いがけない効用も交えながらのお話は、きっと皆様を豊かな言葉の世界へいざなってくれるでしょう。

山梨放送アナウンス部長
講師 **浅川 初美氏**



プロフィール
昭和29年 山梨県に生まれる
昭和47年 甲府一高卒業、日本女子大学文学部入学
昭和51年 山梨放送入社、アナウンサー33年
現在
山梨放送本放送部制作担当部長兼山梨放送アナウンス部長
山梨英和大学非常勤講師
講座名「コミュニケーションの技法」
現在の担当番組
「YBSフタデニュース」 月～金 18:15～18:55
「秋篠の原」 毎月最終生放送 10:25～11:20

日時：平成22年3月6日(土)
13:00～16:30(12:30開場)
講演会(13:00～14:30)終了後懇親会
会費：4,000円
懇親会(ロビポップパーティ)費を含む
※飲み物、軽食を用意しております。
会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)
3F 富士の間
千代田区九段北4-2-25(下記地図参照)
TEL 03-3261-9921(代)



東京メトロ 有楽町線・有楽町線 市ヶ谷駅A1-1出口 徒歩2分
都営地下鉄 有楽町線 市ヶ谷駅A1-A4出口 徒歩2分
京中央線 有楽町線 市ヶ谷駅 徒歩2分

出席・欠席のお返事は2月6日(土)までに同封はがきにてお願いいたします。
東京同窓会HPでも受け付けます。 <http://www.f.biglobe.ne.jp/~f11-tokyo/index.html>

第14回「一紅会」主催 講演会

どうなる日本の明日

～報道最前線での洞察～

東日本大震災のため延期されていましたが講演会がいよいよ開催の運びとなりました。
この間多くの方から実施についてお問い合わせいただきありがとうございました。
東日本の復興を祈りつつ、藤巻氏に震災後の日本を展望していただきます。

グローバル化が急速に進み、世界情勢の変化が日本を直撃する時代になりました。デフレが続き、経済が低迷する日本はこれからどうなるのでしょうか？今日の新しい世界秩序は20年前の冷戦崩壊から始まったと言われていいます。ベルリンの壁やソ連の崩壊を現地取材、現在編集委員として日本の新しい経済社会トレンドを追いかける氏の講演にご期待ください。

日本経済新聞編集委員
講師 **藤巻 秀樹氏**



プロフィール
1955年山梨県に生まれる。
73年甲府一高卒業、東京大学文学部仏文科卒業
日本経済新聞社入社。ハルビ支局長などを経て、現在編集委員。人口減少社会、移民・多文化共生問題、NPOなど新しい経済社会トレンドを取材・執筆。
09年は日系ブラジル人居住地域の愛知農田市・保良見地、10年はアジア系外国人が住む東京・大久保地区の住み込み取材を実施、長期連載をした。
著書
「シラウクのフランス」(日本経済新聞社)、「流通に出た経済学者たち」(中央大学出版部)、「ルボ」日本の縮図にむかへる。(共著、日本経済新聞社)、他多数あり

平成23年10月10日(祝・月)
14:30～16:00(開場14:00)

会費 1000円ロビポップパーティはありません

会場 **東京ウィメンズプラザ**

地下1F ホール
渋谷区神宮前5-53-67
03-5467-1711



出席のお申込みは9月1日(木)～9月30日(金)までに

各学年幹事または、下記 担当学年HPアドレスまでお願いいたします。
尚、会場都合により定員250名を超えた場合、期間内であっても受付を終了させていただく可能性があります。
担当学年HP (<http://48kai.web.fc2.com/>)

第15回「一紅会」主催 春の講演会

少子化日本を救う「母子手帳教育」とは

3.11の震災以来、家族の絆や人々の連帯の重要性が再認識されています。
若者が「母子手帳」を母親と一緒に見ながら話し合うことは彼等の人間形成にとってどんなに大切なことであるか！
青年期のメンタルヘルスだけでなく、子供虐待防止、深刻な少子化の対策等に繋がります。日本の将来に希望が湧く・・・この教育を実践している井上栄先生にお話を伺います。

講師：大妻女子大学教授
井上 栄氏

<プロフィール>

昭和33年甲府一高卒
東大医学部卒、同大学院修了 医学博士
元・国立感染症研究所感染症情報センター長
2001年大妻女子大学家政学部教授(健康教育)
母子健康手帳活用推進協会会長



著書：「感染症—広がり方と防ぎ方」(中公新書)、「感染症の時代—エイズ、0157、結核から感染症まで」(講談社現代新書)、「文明とアレルギー—花粉症と日本人」(講談社)

日時：平成24年3月10日(土)
18:00～19:30(12:30開場)
講演会(13:00～14:30)終了後
引き続き懇親会を行います。
会費：4,000円
懇親会(ロビポップパーティ)費を含む
飲み物、軽食を用意しております。
会場：**アルカディア市ヶ谷(私学会館)**
3F 富士の間
千代田区九段北4-2-25(下記地図参照)
TEL 03-3261-9921(代)



東京メトロ有楽町線・有楽町線市ヶ谷駅(1または2)出口 徒歩2分
都営地下鉄有楽町線市ヶ谷駅A1-A4出口 徒歩2分
京中央線(有楽町線)市ヶ谷駅 徒歩2分

出席・欠席のお返事は2月11日(土)までにお願いいたします。
東京同窓会HP(<http://www.kfi-tk.jp/>)
東京同窓会平成24年当学年HP(<http://www.s49.kfi-tk.jp/>)でも受け付けます。

第16回「一紅会」主催 春の講演会

子ども達に活かされて

共に歩む小児科医の夢

講師 **おぐちこどもクリニック院長 小口弘毅氏**

少子高齢化の日本の将来を担う子どもたちは宝ですが、現状は健全な成長を阻む危険が山積みです。
ましてや難病や障害を抱えた子どもたちを取り巻く環境は・・・？その家族の想いは・・・？
私たちはどう関わらなければならないのでしょうか。「どんな子どももしあわせに」と願いながら
ひとすじに障害児の育成と支援に取り組んでくれた小口先生にお話を伺います。

日時：平成25年3月9日(土) 13:00～16:30(12:30開場)
講演会(13:00～14:30)引き続き懇親会を行います。

会費：4,000円 懇親会(ロビポップパーティ)費を含む 飲み物、軽食を用意しております。

会場：**アルカディア市ヶ谷(私学会館)** 3F 富士の間
千代田区九段北4-2-25(下記地図参照) TEL 03-3261-9921



プロフィール

昭和45年甲府一高卒
北里大学医学部卒、医学博士 専門分野：小児科学、新生児学
1983-85年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校小児科 研修
元北里大学医学部小児科講師、元新生児集中治療センター主任
2000年 おぐちこどもクリニック開設
現在 赤やん子育てネットワーク副会長 「みんなのふるさと夢プロジェクト」実行委員



出席・欠席のお返事は2月9日(土)までに同封はがきにてお願いいたします。
HPでも受け付けます。 <http://www.kfi-tk.jp/>

東京メトロ 有楽町線・有楽町線 市ヶ谷駅A1-1出口 徒歩2分
都営地下鉄 有楽町線 市ヶ谷駅A1-A4出口 徒歩2分
京中央線 有楽町線 市ヶ谷駅 徒歩2分

第17回「一紅会」主催 春の講演会

万葉集は、古代人の「ドキュメンタリー」

講師 小河原 正己氏
(NHK「日めくり万葉集」プロデューサー)

万葉集は、日本に現存する最古の和歌集です。歌集としての魅力は言うまでもありませんが、万葉集は、まさに古代の「タイムカプセル」であり、万葉の時代に生きた人々の心や暮らしの「ドキュメント」でもあります。
NHK在籍時、ドキュメンタリー番組等の制作に取り組みました小河原プロデューサーに、「ドキュメンタリーとしての万葉集」を語っていただきます。

日時：平成26年3月8日(土) 13:00~16:00 (12:30 開場)

講演会 (13:00~14:30) の後、引き続き懇親会を行います

会費：4,000円

懇親会(ロビポップパーティ)費を含む 飲み物、軽食を用意しております

会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)3F 富士の間

千代田区丸の内 4-2-25 (下記地図参照) TEL: 03-3261-9921



講師プロフィール

昭和34年、甲府一高卒。昭和39年、東京大学仏文科卒業後、NHK入局。教育、教養、ドキュメンタリー番組の制作。主な制作番組：「NHK特集」「ヒロシマドキュメンタリー」「日曜美術館」「ルール美術館」「海のシルクロード」「日めくり万葉集」(平成24年まで放送)他多数。
平成25年10月、高岡市で公演した音楽朗読劇「万葉ファンタジスタ・大伴家持」のプロデューサーと脚本を担当。
現在 NHK 文化センターにて「日めくり万葉集講座」を開講。

出席・欠席のお返事は、2月8日(土)までに 同封はがきにてお願いいたします
HPでも受け付けます。http://www.kf1-tk.jp/



東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅(1またはA1)出口
都営地下鉄新線市ヶ谷駅(A1またはA4)出口
JR中央・総武線(各駅停車)市ヶ谷駅 徒歩2分

第18回「一紅会」主催 春の講演会

日本政治の昨日・今日・明日

講師 NHK解説主幹 島田敏男氏

「1999年から日本でも政権交代が繰り返され、政治家に選挙権・責任感が厳しく求められる時代になりました。再チャレンジの安倍首相は、今、波気の政権運営を続けています。その特徴を見ると、自衛隊を動かす安全保障には熱心ですが、暮らしを支える社会保障には強み込みが不足気味です。」(NHK解説主幹) NHK「日曜討論」で与野党の政治家と対談する(?)島田敏男氏に、日本政治の昨日と今日を分析しながら、明日を展望していただきます。



プロフィール

昭和34年(1959年)3月山梨県甲府市に生まれる。
昭和52年(1977年)甲府第一高等学校卒業。
甲斐大学文学部政治学専攻卒業。昭和55年(1980年)4月NHK入局。
編集長室長、青森放送局記者を経て、報道局長(政治部記者)、青森放送局キャブ、政治部デスクを経て、平成19年(2004年)より解説委員、平成20年(2006年)より解説主幹。
担当分野：経済、外交、安全保障、選挙
主な発言：日本経済活性化の行方、菅直人内閣の弱体化、見えない外交の基礎、「2選を過ぎ」安倍首相
最新発言：平成28年(2016年)より、NHK総合テレビ、ラジオ第一放送で「日曜討論」から放送されている「日曜朝刊」の司会を務める。

日時：平成27年3月14日(土)

13:00~16:00(12:30 開場)

講演会(13:00~14:30)終了後、引き続き懇親会を行います。

会費：4,000円

懇親会(ロビポップパーティ)費を含む 飲み物、軽食を用意しております。

会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)3F富士の間

千代田区丸の内 4-2-25 (下記地図参照) TEL: 03-3261-9921 (代)

< 会場のご案内 >



出席・欠席のお返事は、2月14日(土)までに 同封はがきにてお願いします。
東京同窓会HPでも受け付けます。
http://www.kf1-tk.jp/

東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅(1またはA1)出口
都営地下鉄新線市ヶ谷駅(A1またはA4)出口
JR中央・総武線(各駅停車)市ヶ谷駅 徒歩2分

第19回「一紅会」主催 春の講演会

ウイスキーは「日本」の酒である

講師 サントリー名譽チーフブレンダー 奥水精一氏



近年日本のウイスキーは、世界的な酒類競技会(コンペティション)でたくさん受賞するなど、国際的に注目されていることは大変喜ばしいことです。お酒と言えば日本酒ですが、ビール、ワイン、ウイスキーもお馴染みです。NHKの朝の連続テレビ小説「マッサン」の影響でウイスキーへの関心が高まり、古い歴史と深い文化のあることを知りましたが、私達は余り多くは知りません。社大な夢を抱きながら探求し続けて、ウイスキーブレンダーとして世界の頂点に立たれた奥水精一氏に「今の日本のウイスキー文化」についてお話していただきます。

●プロフィール

1949年 甲府市に生まれる
1968年 甲府第一高等学校卒業
1973年 山梨大学工学部醸造生産学専攻卒業
1973年 サントリー入社 多摩川工場配属
中央研究所、山崎ディスタリ、洋酒研究所ブレンダー室を経て
ブレンダー・チーフブレンダー
「響30年」は3年連続4回、世界的な酒類コンペティション International Spirits Challenge (ISC) にて最高賞受賞。
「山崎50年」「山崎35年」「白州25年」「響12年」など、サントリーウイスキーを世界的銘酒に育て上げる。
2014年 名譽チーフブレンダー、現在に至る。
2015年 Whisky Magazine 誌が選ぶ「HALL of FAME」(ウイスキーの殿堂)に日本人で初めて殿堂入りする。

日時：2016年3月12日(土) 13:00~16:00 (12:30開場)

講演会 13:00~14:30

講演会終了後、引き続き懇親会を行います。

会費：4,000円

懇親会(ロビポップパーティ)費を含む。

*飲み物、軽食を用意しております。

会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)3F富士の間

千代田区丸の内4-2-25(下記地図参照)

TEL 03-3261-9921

*出席・欠席のお返事は、2月13日(土)までに

同封はがきにてお願い致します。

東京同窓会HPでも受け付けます。

http://www.kf1-tk.jp/



東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅(1またはA1)出口徒歩2分
都営地下鉄新線市ヶ谷駅(A1またはA4)出口 徒歩2分
JR中央・総武線(各駅停車)市ヶ谷駅 徒歩2分

第20回記念一紅会主催 春の講演会

脳の健康とビタミン

講師 東京工業大学生命理工学院 教授 一瀬 宏氏

あなたは今幸せですか？ ストレスの多い現代社会で、心の健康を保つことは難しく心の病に悩んでいる人も増えています。心の病はどのようにして起こるのか、感情はどのようにコントロールされているのか、最近の研究ではどこまでわかっているのでしょうか。脳の働きを支えている神経伝達物質の代謝について研究してこられた講師に、ビタミンやビタミン様化合物の脳内での働きについてわかりやすくお話ししていただきます。



講師プロフィール

昭和54年 甲府一高卒業
昭和58年 東京工業大学理学部化学科卒業
昭和60年 同大学大学院総合理工学研究所生命化学専攻修士課程修了
平成元年 名古屋大学大学院医学研究科生化学第一専攻博士課程修了
名古屋大学理学部、藤田保健衛生大学総合生命科学研究所にてドーパミン及びブドウ糖に関する分子生物学的研究に従事
平成6年 ドーパミン反応性ジストニアの原因遺伝子を見発見
平成15年 東京工業大学に勤務
平成25年 日本ビタミン学会賞受賞

日時：平成29年3月11日(土) 13:00~16:00 (12:30開場)

講演会 (13:00~14:30) 終了後、引き続き懇親会を行います。

会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)3F 富士の間

東京都千代田区丸の内4-2-25 TEL:03-3261-9921

会費：4,000円(懇親会費を含む) 飲み物・軽食をご用意しております。

出席・欠席のお返事は2月11日(土)までに 同封はがきにてお願いします。
東京同窓会HPでも受け付けます。
http://www.kf1-tk.jp/



東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅(1またはA1)出口徒歩2分
都営地下鉄新線市ヶ谷駅(A1またはA4)出口 徒歩2分
JR中央・総武線(各駅停車)市ヶ谷駅 徒歩2分

一紅会事始め

前一紅会会長 飯田富美子

大好きな一紅会、平成7年に創設され今年で22年。主催した「春の講演会」も20回の節目の年を迎えました。

当時は東京同窓会への女性参加者も少なく、組織の拡大と活性化を進めることを目標に、当番幹事として手探り状態で女性ネットワークを立ち上げ、会の名称決定、会則の制定、活動基盤である事業方針や事業内容の検討に取り組み、研鑽と絆の場として「講演会」を事業活動の主軸に平成10年に第1回講演会を開催したことに始まります。

以来今日まで継続して開催して来ることができました。その結果東京同窓会への女性参加者も増え、活性化に大いに貢献できたと考えております。

この度第20回の記念講演会ができますのも同窓生の多くの方々から力強いご支援とご協力を頂きましたこと、講師の先生がたの専門分野における奥深い講演内容が我々の向学意欲の琴線に触れ大きな感動を沢山頂いたこと。衷心より感謝とお礼を申し上げます。

「女性の会では参加者は女性に限定したらどうか」とか「同窓会と近い開催日は同窓会参加者が減るので変更したほうが良いのでは」などのご意見も頂きましたが、この講演会は男女問わずに聴講していただけたことが多くの方々に共感され今日まで回を重ねることができたのだと思っています。さらに、継続の原動力になったのは毎回多くの受講生たちから「とても素晴らしい会でしたね。来年も期待していますよ」との力強い一声に後押しされたからに他なりません。

“継続は力なり”、第20回の講演会を機に講演会形式を基底に時代の変化を先取りして新たな展望に向かって再考することも必要な時期に来ているかもしれません。一紅会の未来に大いなる期待と乾杯を！！



第1回一紅会講演会
平成10.1.17
銀座東武ホテル



「一紅会」って、どうしてできたの？
始まりの頃の資料をご紹介します。



女性ネットワークの会発足に寄せて 一紅会会長 渡辺圭子

今年女性ネットワーク「一紅会」が発足致しました。初代会長として推挙をいただき大変
光栄に存じております。世の中の価値観がすべてひっくり返り、ホヤホヤの六三制教育の新
中学生、そして甲府一高第一回女性卒業生と私の世代からすべて新しいものの洗礼を受けな
がら、いつも前向きにとなにごとも夢中になって生きてきました。還暦を過ぎてから又々
一紅会と云う新しい風の中に立つことになりましたが今までの在り方を変えずに、自然体で
楽しく参加してゆきたいと思っております。戦争のない時代が半世紀をすぎ、高度経済成長、
バブル崩壊、ハイテクソフトウェア時代到来とめまぐるしく変わり、政経混迷の情勢の中で
今、女性が感性をキラキラと輝かせて魅力的に生きているように見えます。一高を卒業され
た女性も昭和二八年からすでに四千名を超えました「日々新たに」の言葉のもと大先輩の方々
が築いてこられた伝統を引きついだ女性たちが家庭に社会に一層輝きつづける存在であるよ
うに一紅会がお役に立てる事を願っております。

(日新鐘第3号より)

一紅会
女性ネットワーク
3月7日
発足される！！

甲府一高東京同窓会女性ネットワークの構築に向けて

「女性学年代表者の集い」開催ご案内

(平成7年7月・創設時資料より)

甲府一高御卒業の女性の皆様には益々お元気にしてお過ごしのことと存じます。

甲府一高を卒業された女性の総数は、最初に男女共学となった昭和28年（第5回生）から4000名を超えました。東京圏には約2000名の卒業生がおられるとのことですが、例年行われている「甲府一高東京同窓会」への参加者が少なく、今年は1人でも多くの女性の方々の御参加を呼び掛けたいと思っております。

昨年の総会時、関口稔夫校長先生からの熱いメッセージ、さらに当番学年（S32卒）からの強い御提案もあり、ここに「甲府一高東京同窓会女性ネットワークの構築」の為の「女性学年代表者の集い」を計画致しました。

おそらくクラス会や学年会へは何時も御参加なさっておられるとは思いますが、この度は縦のネットワークを構築する事によって、学年にはないより一層巾広い懇親を深めることができるのではないかと、また仕事の面や家庭・ボランティア等あらゆる社会のなかで御活躍しておられる方々がお互いに情報交換しあうのも大変意義のある事と考えます。

貴方様を「学年の女性代表者」として現在の学年理事様よりご推薦いただきましたので、下記の通り御案内申し上げます。当日は皆で WAIWAI/GAYAGAYA やりたいと考えておりますのでお気軽に御出席下さいますようお願い申し上げます。

